

防災気象情報の改善について（概要）

令和7年 11月

気象庁では、対象となる現象や災害の内容によって以下のように6種類の特別警報、7種類の警報、16種類の注意報、5種類の早期注意情報（警報級の可能性）を発表している。

特別警報	<u>大雨（土砂災害、浸水害）</u> 、暴風、暴風雪、大雪、波浪、 <u>高潮</u>
警報	<u>大雨（土砂災害、浸水害）</u> 、 <u>洪水</u> 、暴風、暴風雪、大雪、波浪、 <u>高潮</u>
注意報	<u>大雨</u> 、 <u>洪水</u> 、強風、風雪、大雪、波浪、 <u>高潮</u> 、雷、融雪、濃霧、乾燥、なだれ、低温、霜、着氷、着雪
早期注意情報 （警報級の可能性）	大雨、暴風（暴風雪）、大雪、波浪、高潮

※このうち、今般の情報体系の整理対象とするものは、青下線のもの。
（警戒レベル相当情報としての位置づけがあるものを中心に整理）

防災気象情報に関する検討会

- 「防災気象情報に関する検討会」の最終とりまとめ（令和6年6月）を踏まえた**新しい防災気象情報の運用を令和8年出水期から開始する予定**です。
- 新しい防災気象情報では、**住民の避難行動に対応した5段階の警戒レベルに整合させ、災害発生の危険度の高まりに応じて各情報を発表**します。
- この方針のもとで、**情報名称の変更**、警戒レベル4相当となる**危険警報の新設**、**洪水関係の情報変更**、**気象防災速報の新設**など、現行の大雨警報・注意報などの気象庁が発表する防災気象情報が大きく変わります。

- [開催趣旨](#)
- [最終とりまとめ](#)
- [第8回](#)
- [第7回](#)
- [第6回](#)
- [第5回](#)
- [サブワーキンググループ（第5回）](#)
- [サブワーキンググループ（第4回）](#)
- [サブワーキンググループ（第3回）](#)
- [サブワーキンググループ（第2回）](#)
- [サブワーキンググループ（第1回）](#)
- [中間とりまとめ](#)
- [第4回](#)
- [第3回](#)
- [第2回](#)
- [第1回](#)

- 住民が災害時にとるべき避難行動が直感的にわかるよう避難情報等を5段階の警戒レベルに整理。
(平成30年7月豪雨の教訓を踏まえ、令和元年出水期から運用開始。)
- その後、令和3年の災害対策基本法改正により、警戒レベル4にあたる避難勧告と避難指示が避難指示に一本化。

令和3年5月20日から
ひなんしじ
避難指示で必ず避難
ひなんかんこく
避難勧告は廃止です

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	緊急安全確保※1	災害発生情報 (発生を確証したときに発令)
4	避難指示※2	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	高齢者等避難※3	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

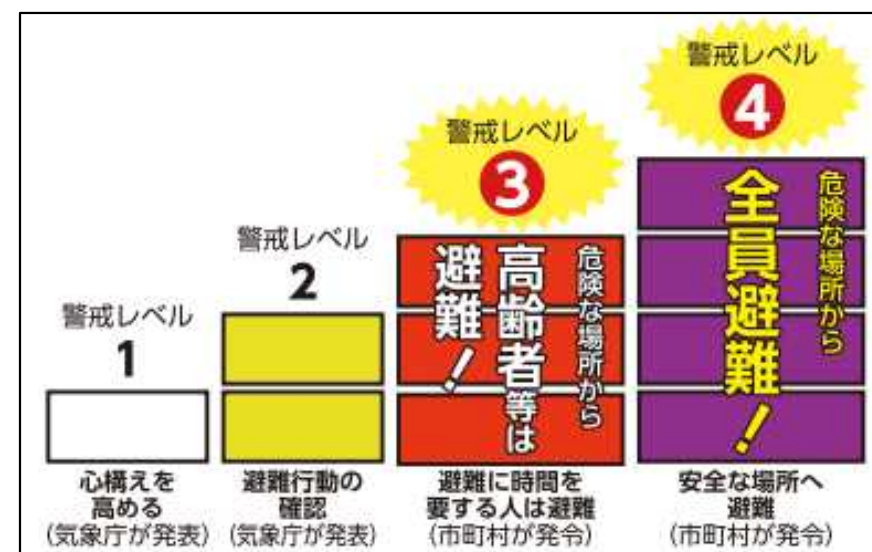
※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。
 ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。
 ※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ自らの行動を見合わせたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません！

避難勧告は廃止されます。これからは、警戒レベル4避難指示で危険な場所から全員避難しましょう。

避難に時間のかかる高齢者や障害のある人は、警戒レベル3高齢者等避難で危険な場所から避難しましょう。

内閣府(防災担当)・消防庁



❗ 警戒レベル5はすでに災害が発生・切迫している状況です。

「避難行動判定フロー・避難情報のポイント」(内閣府(防災担当))より

現在の主な防災気象情報と警戒レベルとの関係

警戒レベル				主な防災気象情報（警戒レベル相当情報）						
警戒 レ ベル	状 況	住 民 が と る べ き 行 動	行 動 を 促 す 情 報 （ 避 難 情 報 等 ）	警戒 レ ベル 相 当 情 報	防災気象情報					
					洪水等に関する情報			土砂災害	高潮害	
					指定河川 洪水予報 （河川毎）	洪水害 （市町村毎）	大雨浸水害 （市町村毎）			
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保	5相当	氾濫発生情報	大雨特別警報 （浸水害）		大雨特別警報 （土砂災害）	高潮氾濫発生情報	
＜警戒レベル4までに必ず避難！＞										
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	市町村は、 警戒レベル 相当情報 などを参考 に、避難指 示等の発令 を判断する	4相当	氾濫危険情報		土砂災害警戒情報	高潮特別警報 高潮警報	
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難※	高齢者等避難		3相当	氾濫警戒情報	洪水警報	大雨警報 （浸水害）	大雨警報 （土砂災害）	警報に切り替える 可能性が高い 高潮注意報
2	気象 状況 悪化	自らの避難行動を 確認する	洪水、大雨、 高潮注意報		2相当	氾濫注意情報	洪水注意報	大雨注意報		高潮注意報
1	今後気象 状況悪化 のおそれ	災害への心構えを 高める	早期注意情報		1相当					

<警戒レベル4までに必ず避難！>

市町村は、警戒レベル相当情報などを参考に、避難指示等の発令を判断する

警戒レベルとの対応関係が整理されてはいるものの、次のような課題があってとても分かりにくい。

- 情報名称がバラバラで、どのレベルに相当する情報なのか非常にわかりづらい
- 警戒レベル4相当の情報がないものがある（洪水・大雨浸水）
- 特別警報と警報が同じ警戒レベル4になっている（高潮）
- 高潮注意報がレベル2とレベル3相当に分かれている（高潮）
- 同じ警報が異なる対象災害を兼ねている（大雨警報が土砂災害と浸水害を兼ねるなど）

課題解決に向け、「防災気象情報に関する検討会」で約2年半かけて議論

- 防災気象情報（大雨、河川氾濫、土砂災害、高潮）を5段階の警戒レベルにあわせて発表。
- 対象災害ごとの情報として整理するとともに、**レベル4相当の情報として危険警報を新設。**
- **情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表。**（例：レベル4大雨危険警報 等）
- 情報と対応する防災行動との関係が明確に。（レベルの数字で、とるべき行動が分かる！）

新しい防災気象情報の情報体系とその名称

	大雨 低地の浸水や 大河川以外の氾濫	河川氾濫 1級河川などの 大きな河川の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや 土石流	高潮 海水面上昇や 高波による浸水	住民が とるべき行動
5	レベル5 大雨特別警報	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
----- <警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難！> -----					
4	レベル4 大雨危険警報	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
3	レベル3 大雨警報	レベル3 氾濫警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
2	レベル2 大雨注意報	レベル2 氾濫注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
1	早期注意情報				災害への心構えを高める

- これまで、気象警報・注意報を補足する情報等として伝えてきた様々な気象情報を、「**気象防災速報**」と「**気象解説情報**」の大きく2つのカテゴリーに分類して発表。
- 線状降水帯の発生や、記録的な短時間大雨など、顕著現象が発生または発生しつつある場合にその旨を、「気象防災速報」として速報的に伝える。

気象防災速報 …… 極端な現象を速報的に伝える情報

現状

記録的短時間大雨情報

顕著な大雨に関する気象情報

線状降水帯 2～3 時間前予測
(R8運用開始予定)

顕著な大雪に関する気象情報

竜巻注意情報

今後（令和8年度出水期～）

気象防災速報（記録的短時間大雨）

気象防災速報（線状降水帯発生）

気象防災速報（線状降水帯直前予測）

気象防災速報（短時間大雪）

気象防災速報（竜巻注意/竜巻目撃）

気象解説情報 …… 現在・今後の気象状況を網羅的に解説する情報

現状

線状降水帯半日前予測

全般台風情報

全般/地方/府県気象情報

今後（令和8年度出水期～）

気象解説情報（線状降水帯半日前予測）

気象解説情報（台風第○号）

気象解説情報（※）

※何に着眼した情報なのかがわかるよう、括弧内にキーワードを付す。

各情報の主な変更点

～これまでの警報等がどのように変わるのか～

＜現在の土砂災害に関する情報＞

発表者		都道府県と気象台	気象台
発表指標		60分雨量（解析・予測） 土壌雨量指数（解析・予測）	土壌雨量指数（解析・予測）
情報名称	5		大雨特別警報（土砂災害）
	4	土砂災害警戒情報	
	3		大雨警報（土砂災害）
	2		大雨注意報
	1		早期注意情報

- 警戒レベル4相当情報だけ、都道府県と気象台が共同発表
- 発表指標も警戒レベル4相当情報だけ異なる。
- 大雨警報（土砂災害）が発表されても警戒レベル4相当情報の発表に至らないこと（空振り）が多い。



発表者		気象台
発表指標		60分雨量（解析・予測） 土壌雨量指数（解析・予測）
情報名称	5	レベル5土砂災害特別警報
	4	レベル4土砂災害危険警報
	3	レベル3土砂災害警報
	2	レベル2土砂災害注意報
	1	早期注意情報

- 警戒レベル4相当情報も都道府県の協力を得て気象台が単独で発表。
- 発表指標を、土砂災害警戒情報で用いている指標（土壌雨量指数と60分雨量の2要素）に統一。
- 警戒レベル3相当情報は3～6時間先にレベル4基準に到達すると予想した場合に発表する運用に変更（レベル4に到達しない警戒レベル3相当情報の発表を大幅に減らせる）。

＜現在の高潮に関する情報＞

発表者		都道府県	気象台
発表指標		潮位（実況）	潮位（実況・予測）
情報名称	5	高潮氾濫発生情報	
	4		高潮特別警報 高潮警報
	3		警報に切り替える可能性が高い 高潮注意報
	2		高潮注意報
	1		早期注意情報

- 都道府県と気象台が発表する情報が混在
- 特別警報と警報が同じ警戒レベル4相当
- 高潮注意報が警戒レベル2と警戒レベル3相当に分かれる
- 高潮による浸水は、沿岸に打ち寄せる波によっても生じるが、この効果が考慮されていない



- 高潮により相当な損害を生ずるおそれがあるものとして都道府県知事が新たに指定した海岸（高潮予報指定海岸）では、都道府県と気象台が共同発表する情報とし、**波のうちあげの効果も加味した情報に高度化**する。
- **高潮特別警報は発表基準を変更して警戒レベル5相当情報として運用**（これまでの台風を要因とする高潮特別警報の運用はなくなり、レベル5相当の基準を新たに設定して運用）
- **警戒レベル毎に情報体系を整理**し、避難行動との関係を明確化。レベル3相当、レベル2の情報は、レベル4相当情報からさらに数時間のリードタイムを確保して発表する運用に変更。

情報名称や特別警報の発表基準など、大きく変わります

警戒レベル毎に情報を整理し、避難行動との関係を明確化！

(警戒レベル毎の情報に！)

- レベル 4 高潮危険警報を市町村による避難指示発令、レベル 5 高潮特別警報を緊急安全確保発令のトリガー情報として活用していただくことを想定して情報を設計。
- レベル 3 高潮警報とレベル 2 高潮注意報は、レベル 4 からさらにリードタイムをとって発表（早めの防災対応が必要な場合はレベル 3 やレベル 2 の段階から対応）。

(発表基準の見直し)

- レベル 4 高潮危険警報の基準は、その基準を実況で超えると浸水被害が生じてもおかしくない高さに設定（堤防の設計高潮位や居住地域の地盤高等で設定）する。
- 高潮予報指定海岸では、従来の潮位予測に基づく発表に加えて波のうちあげ高の効果を加味した水位予測に基づく発表も開始（波の効果も加味することで高潮浸水被害に対し、よりの確な情報発表が可能に）。
- 現在の高潮特別警報の台風等を要因としている発表指標は見直して、レベル 5 高潮特別警報として潮位等の基準を新たに設定して運用。

情報名称	発表タイミング	住民がとるべき行動
レベル 5 高潮特別警報	浸水がすでに発生 or 切迫	ただちに安全確保の行動を
レベル 4 高潮危険警報	浸水発生の最大○時間前に発表	浸水想定区域など、高潮による浸水被害のおそれのある場所にいる者は全員安全な場所に避難
レベル 3 高潮警報	浸水発生の最大○時間前に発表	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
レベル 2 高潮注意報	浸水発生の最大○時間前に発表	避難行動を確認（避難場所やルート、時期など）
早期注意情報	5 日先までにレベル 4 相当の現象が予想される場合に「高」「中」の 2 段階で発表	災害への心構えを高める

※情報名称の最終決定は、法制度などとの関係も踏まえ、気象庁・国土交通省が行う

＜現在の洪水等に関する情報＞

洪水に関する情報				
分類		洪水予報河川	水位周知河川	左記以外の河川も含む 洪水警報等
河川数		約400河川	約1,800河川	—
発表主体		河川事務所または 都道府県と気象台	河川事務所または都道府県	気象台
発表単位		河川ごと	河川ごと	市町村ごと
対象とする 主な現象		外水氾濫	外水氾濫	外水氾濫
発表指標		水位（実測・予測）	水位（実測）	流域雨量指数・表面雨量指数 （解析・予測）
情報 名称	5	氾濫発生情報	氾濫発生情報	
	4	氾濫危険情報	氾濫危険情報	
	3	氾濫警戒情報	氾濫警戒情報	洪水警報
	2	氾濫注意情報	氾濫注意情報	洪水注意報
	1	早期注意情報		

大雨に に関する情報	
—	
気象台	
市町村ごと	
内水氾濫	
表面雨量指数（流域雨量指数） （解析・予測）	
大雨特別警報（浸水害）	
大雨警報（浸水害） 大雨注意報 ※警戒レベル相当情報としての位置づけなし	
早期注意情報	

- 河川ごとの情報（水防活動用の情報）と市町村ごとの情報（一般向けの警報等）がある。
- 気象台の発表情報に、警戒レベル4相当や5相当の情報がないものがある。
- 大雨警報・注意報は、警戒レベル相当情報としての位置づけがない。

- 洪水に関する情報は、洪水予報河川のみを対象とした河川ごとの情報とし、これを一般向けの警報扱いとする。これまでの気象台による市町村ごとの洪水警報・注意報の発表は行わない。
- 水位周知河川の水位の情報は、当面はこれまで通りの運用とする。（水位の実況情報に洪水危険度を付して情報発表することは当面は行わない。）
- 浸水害を対象とした大雨特別警報・警報・注意報は、大雨に関する情報として警戒レベル毎に整理し、警戒レベル相当情報として位置づけ。洪水予報河川以外の河川についても大雨に関する情報の中で一緒に扱う。（水位周知河川も大雨の情報の中で扱う）

洪水に関する情報				大雨に関する情報	
分類	洪水予報河川	水位周知河川	左記以外の河川も含む 洪水警報等		
河川数	約400河川	当面は、大雨に関する 情報で扱う	大雨に関する情報 で扱う	—	
発表主体	河川事務所または 都道府県と気象台			気象台	
発表単位	河川ごと			市町村ごと	
対象とする 主な現象	外水氾濫			内水氾濫及び 洪水予報河川以外の外水氾濫	
発表指標	水位（実測・予測）			表面雨量指数・流域雨量指数 （解析・予測）	
情報 名称	5	レベル5 氾濫特別警報	河川事務所・都道府県 による水位情報の発表 は継続する 〔 洪水予報河川への 移行を促進 〕	レベル5 大雨特別警報	
	4	レベル4 氾濫危険警報		レベル4 大雨危険警報	
	3	レベル3 氾濫警報		レベル3 大雨警報	
	2	レベル2 氾濫注意報		レベル2 大雨注意報	
	1	早期注意情報		早期注意情報	

※情報名称の最終決定は、法制度などとの関係も踏まえ、気象庁・国土交通省が行う

- 警戒レベル 1 の早期注意情報は、大雨や高潮等の警報級の現象が 5 日先までに予想されている場合に、その可能性を〔中〕〔高〕の 2 段階で発表する情報です。
- 令和 8 年出水期からは、これまで大雨に含めていた土砂災害の警報級の可能性を切り分けて発表します。
- さらに、明後日までを対象とした情報の時間幅を次のとおり変更します。
 - 明日までは、12時間または18時間の時間幅で発表していたものを6時間の幅で発表
 - 明後日については、1 日の時間幅であったものを午前・午後に分けて発表

(現行)

	1日	2日				3日	4日	5日	6日
警報級の可能性	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24				
大雨	[中]	[高]				[中]	—	—	—



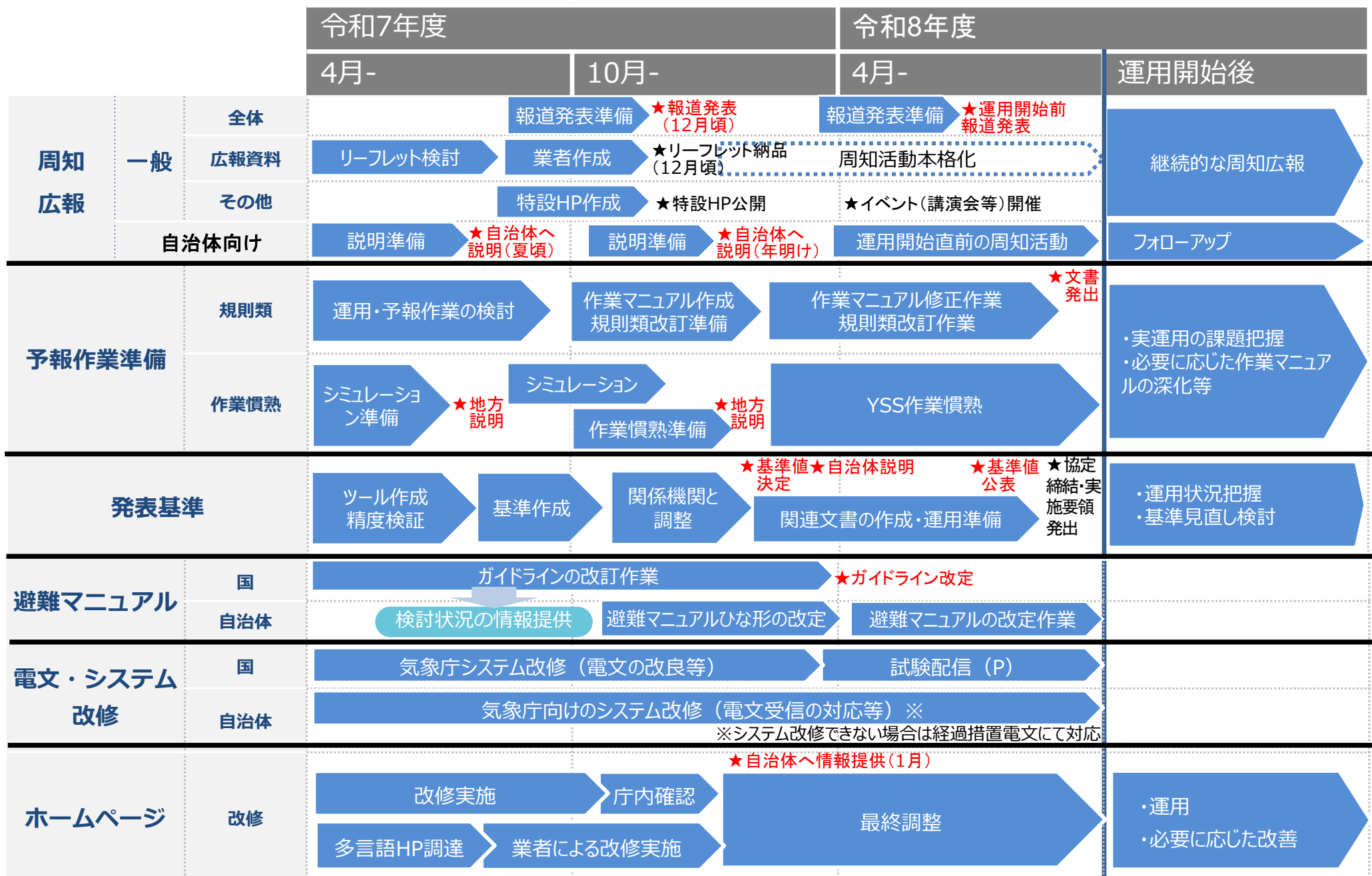
(新体系)

	1日	2日				3日		4日	5日	6日
警報級の可能性	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24	00-12	12-24			
大雨	—	[中]	[高]	[中]	—	—	—	—	—	—
土砂災害	—	[中]	[高]	[高]	[中]	[中]	—	—	—	—

早期注意情報をうまく活用して災害への心構えを！

新しい防災気象情報の運用開始までの想定スケジュール

0610現在



少し細かく

時系列情報(気象状況の見通し情報)について

(これまでの警報・注意報と時系列情報)

- 警報・注意報の発表時に、それに付随して今後の見通しを示す時系列情報を提示
- 提示する時系列情報は、発表した警報・注意報等に関する要素のみ(他の要素は提示されない)

千曲市の警報・注意報(発表状況)											
2025年05月29日16時35分発表											
千曲市											
警報・注意報(発表)											
警報・注意報(継続)											
警報・注意報(継続)											
千曲市の警報・注意報(今後の推移)											
2025年05月29日16時35分発表											
千曲市											
29日											
30日											
備考・関連する現象											
大雨(浸水)											
洪水											
雷											
備考・関連する現象											
突風、ひょう											

(令和8年度出水期からの時系列情報)

◆ 警報・注警報から独立させ、警報・注意報に先立って気象の見通しを積極的に提示する情報

- 警報・注意報の発表に関わらず、時系列情報の対象とする全要素※1について、3時間毎の見通しを毎日定時※2に提供

……翌日までの各種気象要素の危険度や量的予測の見通しが常に確認可能となる

- 定時以外にも、状況の悪化が見込まれた場合には、必要に応じて臨時に修正発表を行う。

※1 対象要素：大雨、土砂災害、風、波、高潮、雷、乾燥、大雪、融雪、濃霧、着氷、着雪、なだれ、霜

※2 提供時間：毎日6時間毎……05時、11時、17時、23時

○警戒・注意事項時系列													
○年○月○日○時○分発表													
○○地方	○日				△日								
	"12-15	"15-18	"18-21	"21-24	"00-03	"03-06	"06-09	"09-12	"12-15	"15-18	"18-21	"21-24	
1時間最大雨量(mm)	0	0	0	10	10	30	30	30	50	50	50	50	
24時間最大雨量(mm)	150												
													備考・関連する現象
大雨浸水													
土砂災害													
暴風(m/s)	10	10	12	12	12	15	20	20	25	25	25	20	
波浪(m)	3	3	3	4	4	5	6	7	7	8	8	8	
高潮	水位(m)	1	1	1	1	1	1	3	4	5	7	7	7
	潮位(m)	0.5	0.5	0.5	0.8	0.8	0.8	1	1	2	2.5	2.5	2.5
雷													

⋮

(これまでの警報・注意報)

- 警報・注意報の情報文の中で時系列情報（注意警戒が必要な時間帯）をあわせて提示
- 提示する時系列情報は、発表した警報・注意報等に関する要素のみ(他の要素は提示されない)



(令和8年度) 時系列情報と警報・注意報の役割・位置づけを明確化し、別々に分けて提供

時系列情報

- 警報・注意報の発表の有無に関わらず、明日までの気象の見通しを提供（時系列情報を後追いする形で警報・注意報が発表されるイメージ）

○警戒・注意事項時系列													
○年○月○日○時○分発表													
○○地方	○日				△日								
	*12-15	*15-18	*18-21	*21-24	*00-03	*03-06	*06-09	*09-12	*12-15	*15-18	*18-21	*21-24	
1時間最大雨量(mm)	0	0	0	10	10	30	30	30	50	50	50	50	
24時間最大雨量(mm)	150												
													備考・関連する現象
大雨浸水													
土砂災害													
暴風(m/s)	10	10	12	12	12	15	20	20	25	25	25	20	
波浪(m)	3	3	3	4	4	5	6	7	7	8	8	8	
高潮	水位(m)	1	1	1	1	1	3	4	5	7	7	7	
	潮位(m)	0.5	0.5	0.5	0.8	0.8	0.8	1	1	2	2.5	2.5	2.5
雷													

警報・注意報

- 最新の気象状況・予測をもとに、個々の気象現象毎に、その発表基準に則って速やかに通知

警戒レベル相当情報	左記以外の特別警報・警報・注意報
レベル5大雨特別警報、レベル5氾濫特別警報、レベル5高潮特別警報、レベル5土砂災害特別警報	波浪特別警報、暴風特別警報、暴風雪特別警報、大雪特別警報
レベル4大雨危険警報、レベル4氾濫危険警報、レベル4高潮危険警報、レベル4土砂災害危険警報	—
レベル3大雨警報、レベル3氾濫警報、レベル3高潮警報、レベル3土砂災害警報	波浪警報、暴風警報、暴風雪警報、大雪警報
レベル2大雨注意報、レベル2氾濫注意報、レベル2高潮注意報、レベル2土砂災害注意報	波浪注意報、強風注意報、風雪注意報、大雪注意報、その他注意報

※時系列情報は、警報・注意報の発表の有無に関わらず提供される予測情報。最新の警報・注意報の発表状況にあわせてその都度内容を修正・変更する運用は原則しない。(ただし、当初の想定から見通しが大きく変わった場合は、修正した時系列情報を臨時で発表)

※令和8年度からは「警報の可能性に言及した注意報」等の運用を終了する予定。常時提供の時系列情報および早期注意情報によって、明日までの警報・注意報の発表の見通しの把握が可能となる。

気象情報（解説情報）の体系整理

「防災気象情報に関する検討会」
最終とりまとめ（R6.6.18） 資料より抜粋

◎ 情報の性質を把握できるよう分類して提供

- これまでいくつかの種類の「気象情報」として伝えていた情報は、線状降水帯をはじめとした具体的な極端現象が発生または発生しつつある場合にその旨を伝える「**極端な現象を速報的に伝える情報**」と、現在及び今後の気象状況等を網羅的に伝える「**網羅的に解説する情報**」に分類して提供。
- それぞれの区別がつくよう統一的な情報名称とし、「線状降水帯」などのキーワードを付すことにより情報へのアクセスを改善。

極端な現象を速報的に伝える情報・・・「**気象防災速報**」

現在

- 顕著な大雨に関する気象情報
- 記録的短時間大雨情報
- 顕著な大雪に関する気象情報
- 竜巻注意情報

整理後

- 気象防災速報（線状降水帯発生）
- 気象防災速報（記録的短時間大雨）
- 気象防災速報（短時間大雪）
- 気象防災速報（竜巻注意／竜巻目撃）

網羅的に解説する情報・・・「**気象解説情報**」

現在

- 全般/地方/府県気象情報
- 全般台風情報

整理後

- 気象解説情報（※）
- 気象解説情報（台風第○号）

※何に注目した情報なのかがわかるよう、括弧内にキーワードを付す。

防災気象情報の最適な活用に向けて

- ・ 防災気象情報の基盤となる**データの提供の更なる推進**と共に、コンピュータで容易に処理できるよう**機械可読性の改善**も進める必要。
- ・ 「プッシュ型」の防災気象情報とあわせて、ホームページ等に掲載する「**プル型**」の**コンテンツの活用を推進**すると共に、当該**コンテンツの充実**を図ることが重要。
- ・ 防災気象情報を受け取った者が自ら考え主体的に行動することができる社会の実現を目指し、以下を推進する必要。
 - 防災気象情報の特徴・特性に対する理解が社会において深まるよう、**平時から知見を積み上げられる環境の構築**（ホームページへの解説資料の掲載等）
 - 国による普及啓発活動に加え、**様々な関係主体（教育機関、専門家、報道機関等）による普及啓発活動の推進**

線状降水帯の予測精度向上に向けた取組（情報の改善）

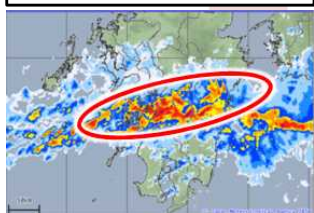
観測の強化、予測の強化の取組の成果を順次反映することで、線状降水帯に関する情報の段階的な改善を実施。

- ・ 令和4年6月、線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけ（広域を対象）を開始。
- ・ 令和5年5月、線状降水帯の発生をお知らせする情報（最大30分程度前倒して発表）を開始。
- ・ 令和6年5月から、半日程度前からの呼びかけについて、対象地域を府県単位に絞り込んでの運用を開始。

線状降水帯による大雨の可能性をお伝え

「明るいうちから早めの避難」・・・段階的に対象地域を狭めていく

令和3(2021)年
線状降水帯の発生を
お知らせする情報
(令和3年6月提供開始)



線状降水帯の雨域
を楕円で表示

令和4(2022)年～

広域で半日前から予測
(令和4年6月提供開始)

令和6(2024)年～

府県単位で半日前から予測
(令和6年5月27日提供開始)

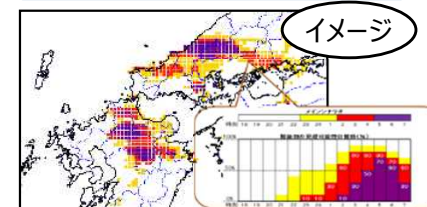
次期静止
気象衛星

令和11年度
運用開始予定



令和11(2029)年～

市町村単位で危険度の把握が可能な危険度分布形式の情報を半日前から提供



イメージ

令和5(2023)年～

最大30分程度前倒して発表
(令和5年5月提供開始)

令和8(2026)年～

2～3時間前を目標に
発表

線状降水帯の雨域を表示

「迫りくる危険から直ちに避難」・・・段階的に情報の発表を早めていく

※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討

国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていく

線状降水帯に関する情報の位置付け

線状降水帯に関する情報

気象解説情報(線状降水帯予測)※

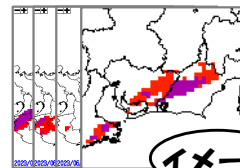
現：気象情報(文中に半日前予測を記載)

内容：線状降水帯による大雨の半日前程度からの呼びかけ

R4 地方単位で呼びかけ

↓
R6 府県単位で呼びかけ

R11 線状降水帯による大雨のおそれが高い領域を半日前からメッシュ情報(市町村単位)で提供予定



補足

イメージ

気象防災速報(線状降水帯予測)※ (新規：2～3時間前予測)

内容：線状降水帯による大雨発生の確度が高まったことをお知らせ

R8・お知らせ開始(予定)

・線状降水帯による大雨のおそれが高い大まかな領域を最大3時間前から提供予定



補足

イメージ

気象防災速報(線状降水帯発生)※

現：顕著な大雨に関する気象情報

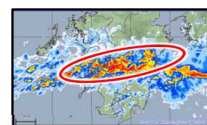
内容：線状降水帯の発生をお知らせ

R3・お知らせ開始

・線状降水帯の雨域を楕円で表示

R5・最大30分前倒しでお知らせ開始

R8・新体系の防災気象情報に基づく基準での運用を開始予定



補足

イメージ

住民に求められる行動

大雨に対する心構えを一段高め、避難等の準備

明るいうちから早めの避難

令和8年度出水期からの新たな防災気象情報の運用と併せて開始

レベル4危険警報が発表されるタイミングと近いことから、自治体からの避難情報を確認のうえ立退き避難

自治体からの避難情報を確認し、速やかに安全確保

迫りくる危険から直ちに避難

※()内キーワードは現時点での想定

線状降水帯発生
の可能性あり

～半日前程度前

線状降水帯発生
の可能性高まる

～3時間前

線状降水帯
発生

30分前
～現在

時間

気象防災速報（線状降水帯予測）

- 今後3時間以内に、線状降水帯の発生により、非常に激しい雨が降り続く可能性が高まった場合に発表
- 一次細分区域を対象に発表

〇〇県 気象防災速報（線状降水帯予測） 第1号

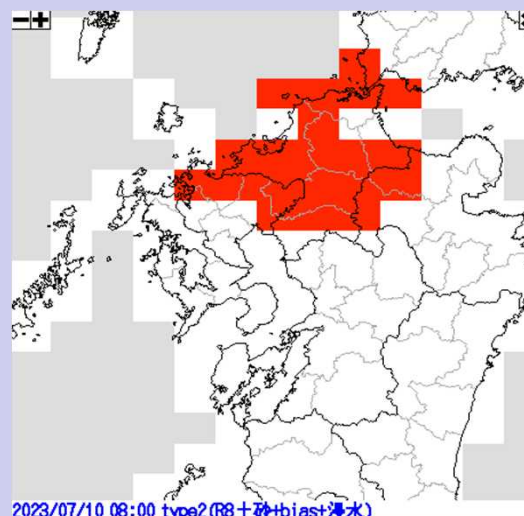
令和〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 〇〇気象台発表

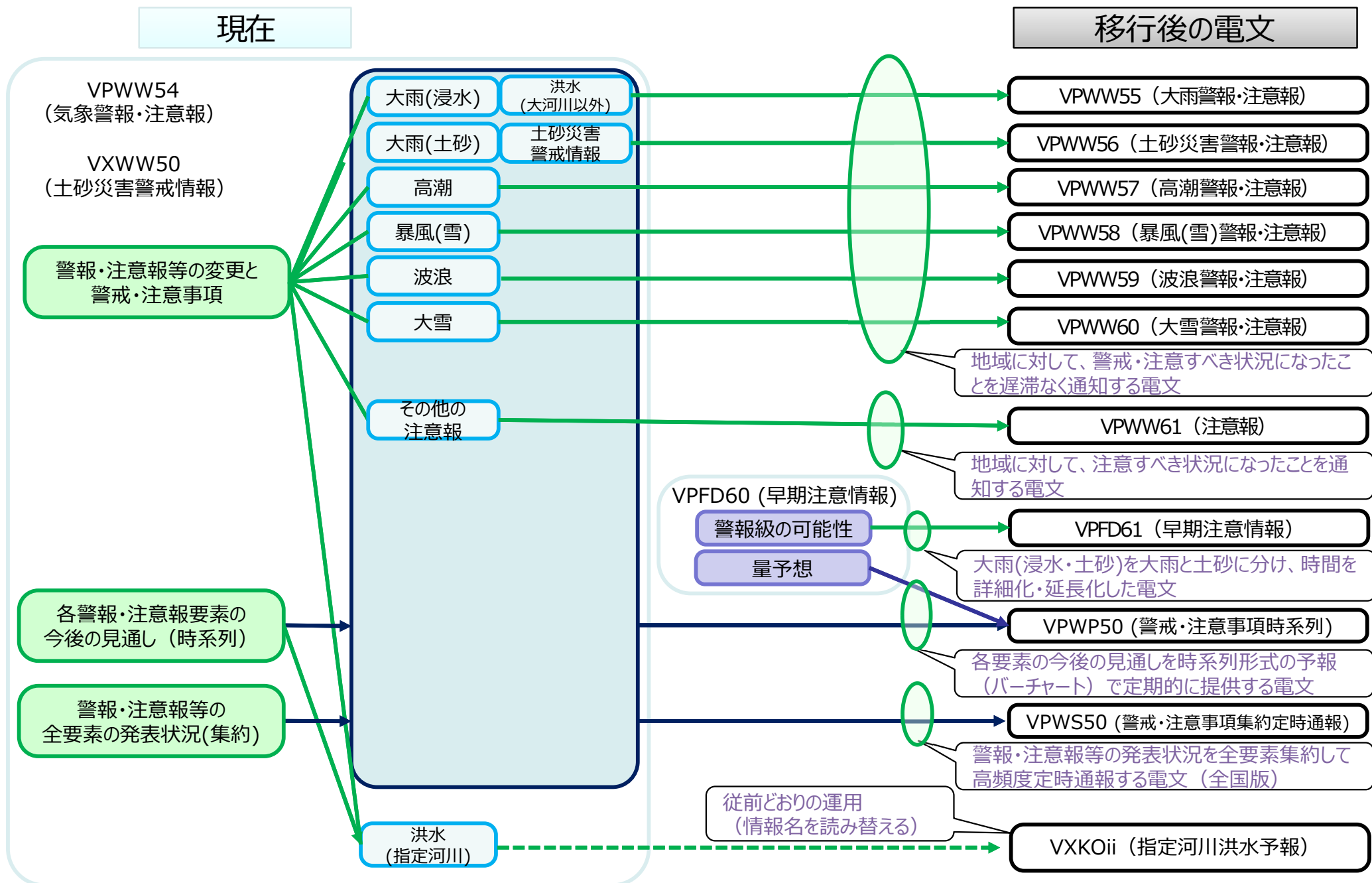
（見出し）

〇〇県〇〇では、今後3時間以内に線状降水帯が発生し、非常に激しい雨が同じ場所で降り続く可能性が高まっています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まるおそれがあります。

線状降水帯リスクマップ（仮称）

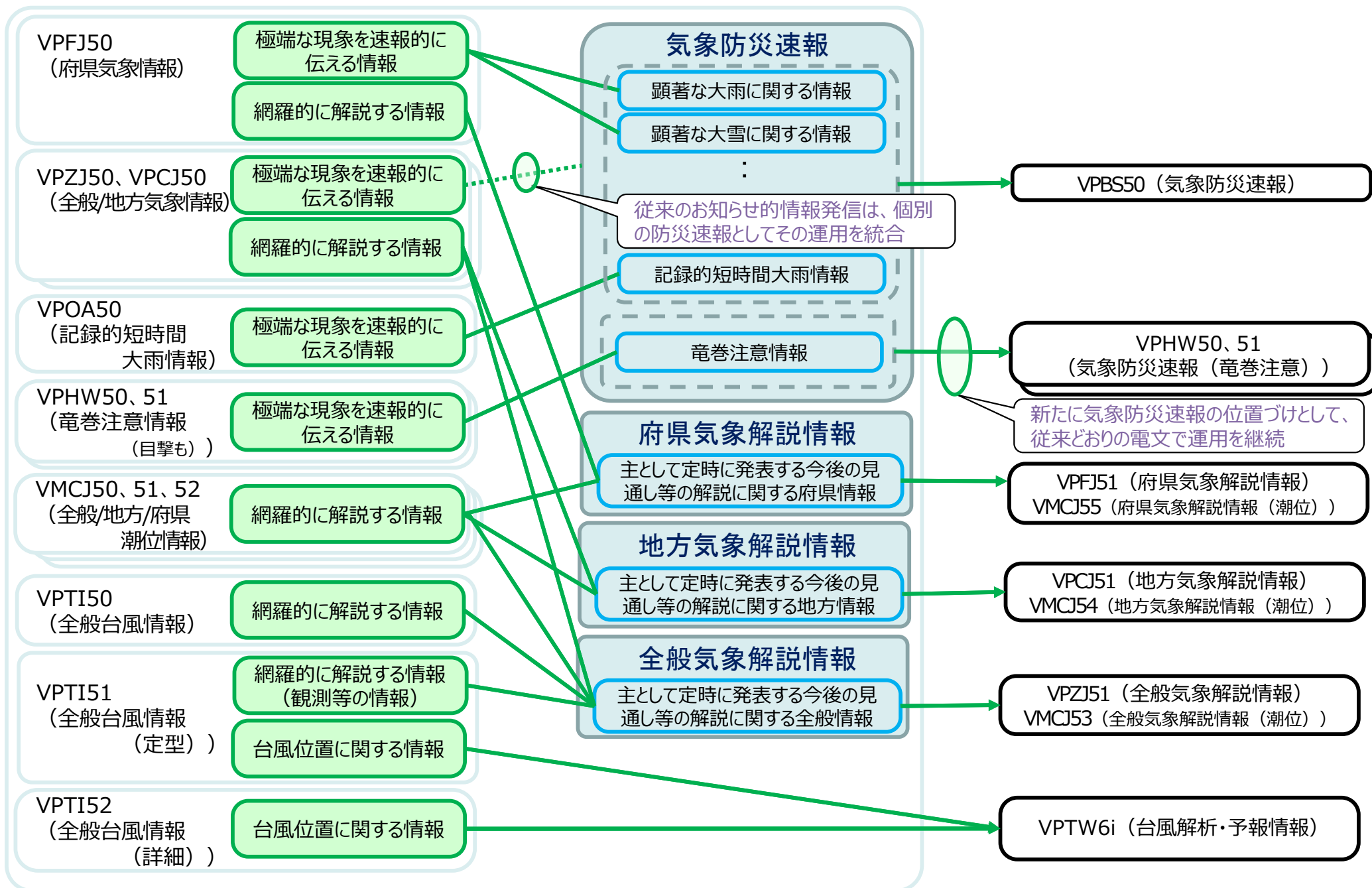
- 文章情報を補足するものとして、最大3時間先までで線状降水帯による大雨のおそれが高い領域をメッシュ情報で提供する。
 - 文章情報の対象地域にあつては、線状降水帯発生のおそれが高い領域を確認し、防災対応につなげていただく。
 - 文章情報が発表されていなくとも、メッシュ表示されている場合は線状降水帯発生のおそれがあることから、今後の防災気象情報に留意いただく。





現在

移行後の電文



体系整理を踏まえた気象警報・解説情報XML電文の詳細に関する資料は、気象庁ホームページに掲載していますので、ご参考下さい。

➤ 配信資料に関する技術情報

配信資料に関する技術情報第 634 号

～体系整理を踏まえた気象警報・解説情報 XML 電文の改善について～

ホーム > 各種申請・ご案内 > 情報ご利用ガイド > 配信資料に関する技術情報

<https://www.data.jma.go.jp/suishin/cgi-bin/jyouhou/jyouhou.cgi>

➤ 気象庁防災情報XMLフォーマット 技術資料

ホーム > 各種データ・資料 > 気象庁防災情報XMLフォーマット情報提供ページ > 技術資料

https://xml.kishou.go.jp/tec_material.html